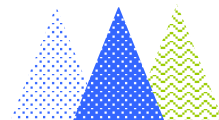




伊那ロータリークラブ



事務所 伊那市西町5016-2 TEL(72)0077 例会日 毎週木曜日 会場くぬぎの杜 TEL(78)1121

会長 小河節郎 幹事 鈴木正比古 会報委員長 八木沢真 第3083回 例会2025.12.4 No.1683

**UNITE
FOR
GOOD**



Rotary
第2600地区

よいことの
ために
手を取りあおう

ソング 君が代・奉仕の理想 四つのテスト 職業・社会奉仕委員会 会長 談話 小河節郎会長

近々病院の大倒産時代がくるとの情報が 있습니다。これまでは小・中病院の倒産は頻繁にありましたが、最近は大病院や大学病院が倒産しており、昨年の病院倒産件数は、29件にのぼっています。このままでは我々が住んでいる信州に病院がなくなる日がくるのではないかと思います。

原因としては物価高、人件費の上昇、医療機器、薬剤の高騰、デジタル化による電子機器の更新、病院建て替えコストの上昇が考えられます。特に建物は30～40年サイクルと言われ、近年の建設費高騰は、かなりの負担になっているようです。

もう一つの原因は外国人の国民保険のただ乗り問題があげられます。外国には日本のような保険制度がないので、手術などの医療費はかなり高額な負担となります。一部の人を除いてその医療費を払えない人がほとんどです。悪意を持った外国人が、日本語学校に入学を名目に、来日と同時に入院し、高額な医療手術を受け、国民保険料の未納付は当たり前、手術費を含め未払いのまま帰国してしまう。請求先がなくなり結果的に病院の損失になる。そして国民保険の使いまわしが横行していることもかなりの数になっているそうです。隣の国では、日本の国民保険ただ乗りセミナーがあり、受講した外国人が悪用しているそうです。

当社の社員が、私に「給料が毎月さがっているが、どうしてですか」

と尋ねられましたが、これは私達の知らないところで保険料を上げているからです。

このように日本国民には厳しく取り立て、外国人の保険料未払いには策を講じない。このことについて、国会でもようやく取り上げられ、「政府もようやく重い腰を上げた」との報道もあります。



医師会の緊急調査によると、医療法人の24年度医業利益の赤字割合は、23年度の31.3%から45.2%に増え、経常利益では24.6%から39.2%に増加しました。又13.8%が近いうち廃業と答えています。

また、国立病院では24年度決算で7割の病院赤字でその経常損は285億円にのぼります。全国自治体病院も86%は経常赤字、95%が医業赤字だそうです。4割の施設が職員採用の募集定員を満たせず。看護職員不足による医療提供体制への影響は44%の施設が患者サービスの低下となっています。

昨年の賃上げは、全産業平均の7.3%なのに対し、医療従事者の賃上げは半分以下の3.4%だったそうです。

昭和伊南病院の移転改築工事が大幅な計画変更になっています。プロポーザルで内定した設計事務所のデーターでは、基本計画時167億円だったものが、104億円の増額となっています。これから設計を見直して実施設計へと進みますが、開院も2027年度から2029年度に変更するそうです。

「医・食・住」ますます厳しくなっていくと思われます。

誕生祝

竹腰哲夫 本郷一博 平出吉範
矢島 豪 城取健太 八木沢真
小林国雄 清水 晃

結婚記念日祝

宮下金俊 牧野由征 小林国雄
清水 晃

幹事報告 別紙をご覧ください

理事会報告概要

1. 12月のプログラム 2. 退会者について

委員会報告【ロータリーの友】12月号紹介

疾病予防と治療月間 本郷一博副会長
横組み P2～RI 会長メッセージ



2月には身体・健康だけでなくメンタルヘルスにも目を向ける月であり、心の健康を支える最も強力な方法は「友情」であると述べている。友情を基盤に、幸せのため、そして良き行いのために手を取り合おうとの呼びかけが印象的である。P5～「特集 ローターリー談義」3名のガバナー経験者が登場し、自身のロータリー人生を振り返りながら語り合っている。縦組み P2～日本 WHO 協会理事長・中村安秀氏による「日本生まれ、世界育ちの母子手帳」を掲載。中村氏はインドネシアでの医療活動を通じ、その重要性を再認識し、現地医師とともにインドネシア版母子手帳を作成し全土へ普及させた。



出席報告 会員数 50 名 内出席免除者 16 名
出席者 29 名 事前メーキャップ 0 名 出席率 70.73%

ニコニコボックス

- ・中山一郎 大事な行事の総会・年末家族会を都合により欠席いたします。
- ・山田 益 密かに孫の合格を願っています。
- ・平出吉範 指名委員会で会長のミニーを選出することができました。
- ・原 英則 本日、卓話をさせていただきます。

ラッキー賞

出澤英則 松沢啓治
唐澤洋祐 矢島 豪
山田 益 三澤 聡
唐木 拓



会員卓話

**アルプス中央信用金庫 理事長 原 英則会員
演題-「私の履歴書」**

私は、昭和 60 年 4 月に旧伊那信用金庫に就職しました。以来、今日までの 40 年 8 ヶ月、信用金庫一筋で働いてまいりました。本日は、私の信用金庫人生において大きな転機となった、平成 15 年 7 月の「金庫の合併」を中心にお話をさせていただきます。

旧伊那信用金庫では、営業店勤務を経て、入庫 17 年目の 40 歳のときに、広報やリスクマネジメントを担当する経営企画課長に就きました。金庫が合併する 2 年前であります。当時の伊那信用金庫理事長は、熊谷勝昌さんからバトンを受けた阿部凱人さんでした。23 年前の平成 14 年に両金庫の理事長が記者会見して合併のプレス発表をしたわけですが、その 4 ヶ月位前に当時の阿部理事長から理事長室に呼ばれ、「赤穂信金と合併する。合併の対



外公表に向けて広報の準備と風評リスク管理を万全にして欲しい」との特命をいただきました。阿部理事長は金庫役員以外の一般職員に対して初めて合併することを伝えた訳ですので、私としても大変緊張して理事長命令を受け止めた記憶があります。それから対外公表日までの間、日常の業務終了後や休日に、誰にも気づかれることなく水面下で対外公表の準備を進めました。報道機関、市町村長や行政機関、総代や取引先、金庫職員、職員家族向けの説明文書、部店長会説明資料の調製を当時の代表理事の指示のもと、1 人で担当しました。「何を一人でこそこそやっているのだろう」と職場の同僚は思ったことでしょう。対外的な広報文書や記者会見の進行表、想定問答作成に際しては、赤穂信用金庫本部に出かけて、当時の役員である総務部長の大澤一郎さんと何度も相談をさせていただきました。赤字決算の公表も同時期に行わなければならない、一人の課長が行う業務としては荷が重く、精神的な負担が大きかったのですが、この経験が今の仕事の支えになっていることは間違いありません。

平成 14 年 6 月 6 日には、報道機関 16 社、記者 25 名を迎えて、渋谷理事長と阿部理事長の合併記者会見を無事乗り切ることができました。部店長や本部の企画担当以外の一般職員は、この日に赤穂信用金庫との合併を初めて知ることになったのです。数日後、両金庫役職員により合併委員会が設立され、私も、委員の一人として業務推進部会に所属して平成 15 年 7 月 22 日の新金庫発足に向けて準備を進めることになりました。アルプス中央信用金庫新発足の直前には新金庫の人事があり、その際、私は営業店へ異動となり、7 月 22 日のアルプス中央信用金庫発足は箕輪支店で迎えました。箕輪支店では次長として、債権管理回収業務を担当させていただきました。不動産業者の皆さんとも親しく情報交換を行い、主として担保不動産の売却や保証人の方からの弁済を中心に回収を進めました。次長として 3 店舗 6 年間で 10 億円以上の回収を手掛けました。その後、3 店舗の支店長を経験し本部に異動して役員に就任したわけですが、合併前の経営企画課長時代に大澤一郎さんとの出会いがなかったら、今の自分ではなかったであろうと思っています。

最後に、城南信用金庫の 3 代目理事長である小原鐵五郎氏の「裾野金融」を紹介して終わりとなります。『富士山の秀麗な姿には誰も目を奪われるが、白雪の覆われた気高い頂は大きく裾野を引いた稜線があってこそそびえる。日本の経済もそれと同じで、大企業を富士の頂としたら、それを支える中小企業の広大な裾野があってこそ成り立つ。その大切な中小企業を支援するのが信用金庫であり、その役割は大きく、使命は重い』